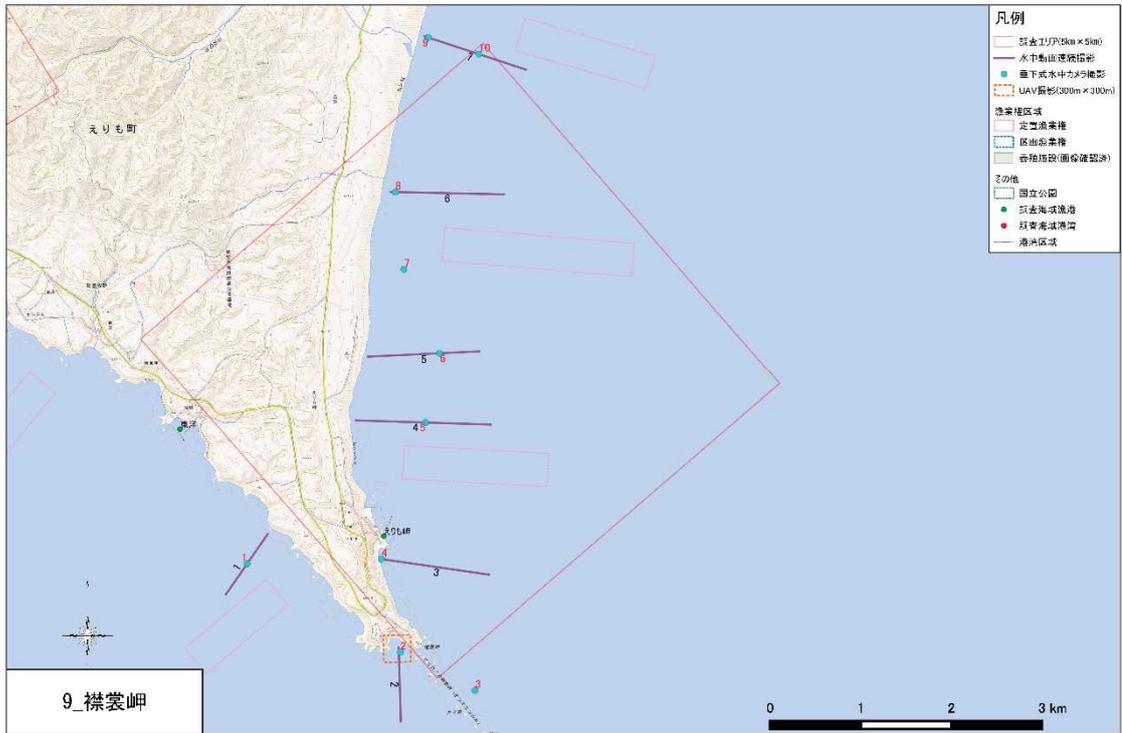


(1) 調査海域名	北海道沿岸海区 襟裳岬
(2) 調査海域の所在	北海道 <small>ほろいずみぐん</small> 幌泉郡えりも町えりも岬周辺

(3) 調査海域及び調査位置図



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	始点				終点				測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度					
1	-	-	-	-	-	-	-	-	813
2	-	-	-	-	-	-	-	-	821
3	-	-	-	-	-	-	-	-	1,160
4	-	-	-	-	-	-	-	-	1,486
5	-	-	-	-	-	-	-	-	1,226
6	-	-	-	-	-	-	-	-	1,251
7	-	-	-	-	-	-	-	-	1,181
総測線距離									7,938

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年 7 月 5 日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容
株式会社エル技術コンサルタント 代表：石田翔吾

(7) 調査海域の概要

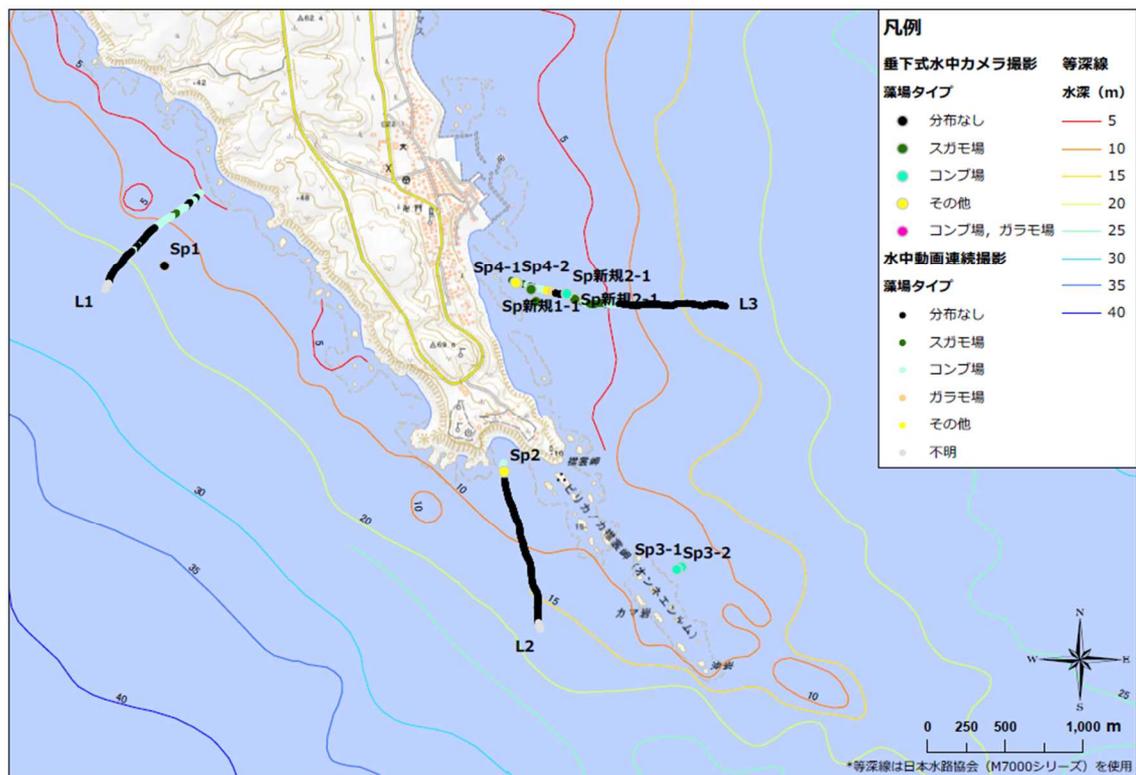
凹凸の激しい岩盤が主体で、切立った峰が沖に向かって数キロにわたり伸展する地形をもつ。主な藻場は、マコンブとミツイシコンブを主体とするコンブ場、フシスジモク、ウガノモクを主体とするガラモ場が分布する海域である（第7回自然環境保全基礎調査）。

年間平均風速は 8.0 m/s を以上であり、洋上風力施設設定可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。

《参考》第7回自然環境保全基礎調査

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1~3 の状況

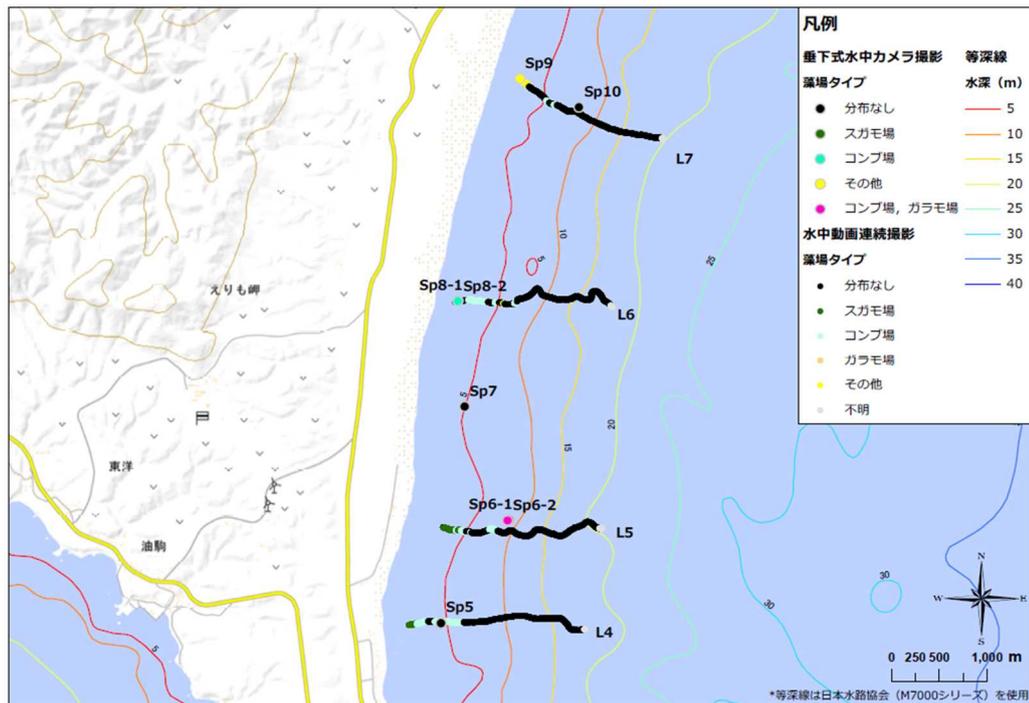


測線 1 の状況：水深約 5～22 m で、岸よりから沖に向かって岩盤から砂質域に底質が変化する測線であった。岸よりの水深約 7 m 以浅ではミツイシコンブが最大被度 100% で密生し、その他にアナメ、ウガノモク、スガモ（すべて被度 5% 未満）の海藻草類が混生して観察された。沖に向かって砂質域を中心とする範囲では海藻がみられなかったが、水深約 8～10 m の岩盤上でミツイシコンブ（被度 5% 未満）、アナメ（5% 未満～10%）、ウガノモク（5% 未満）、スガモ（5% 未満～5%）の海藻草類が観察された。水深 12 m 以深では砂質域が主体となり、海藻草類はみられなかった。

測線 2 の状況：水深約 3～7 m の範囲は岩盤で、ミツイシコンブが最大被度 40% でみられ、その他にスガモが最大被度 30% で観察された。それ以深は砂質域が一面に広がり海藻草類はみられなかった。

測線 3 の状況：水深約 4～17 m で、岩盤を主体とした測線であった。岸よりの水深約 8 m 以浅の岩盤上ではミツイシコンブ（最大被度 60%）やスガモ（最大被度 80%）を中心とした藻場が観察され、その他にアナメ（被度 5% 未満～10%）、ウガノモク（5% 未満～10%）、ハケサキノコギリヒバ（5% 未満～20%）の海藻がみられた。水深 8 m 以深では岩盤や砂質域の底質が交互にみられるが、海藻草類はみられなかった。

○測線 4～7 の状況



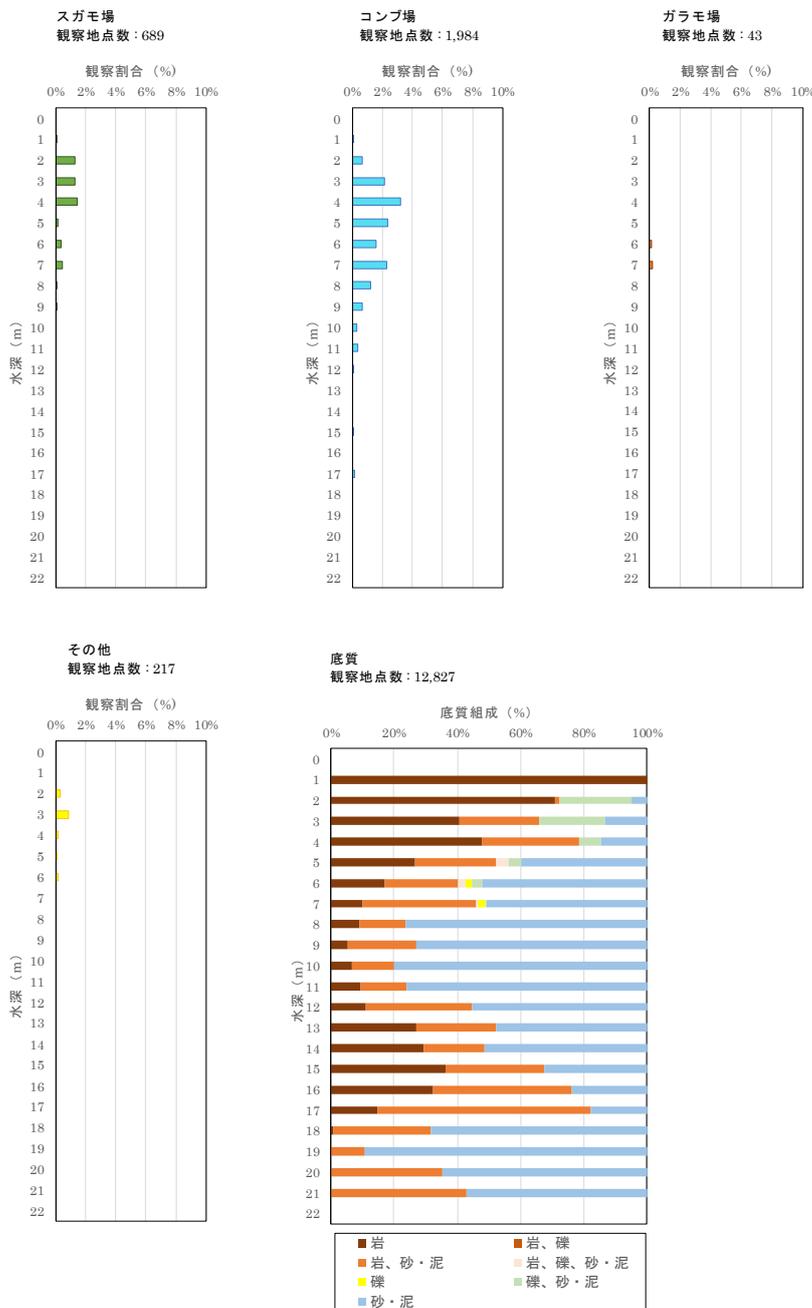
測線 4 の状況：水深約 2～19 m で、岸から沖合に向かって底質が岩盤から砂質域に変化する測線であった。水深約 5 m 以浅ではミツイシコンブ（最大被度 60%）とスガモ（最大被度 60%）を中心とした藻場がみられ、その他にウガノモク（被度 5% 未満）が観察された。水深 6 m 以深では砂質域を主体とする底質となり、海藻草類はみられなかった。

測線 5 の状況：水深約 2～7 m ではミツイシコンブが最大被度 30%、スガモが最大被度 100% でみられ底質は岩盤であった。その他にスジメとホンダワラ類がともに被度 5% 未満で観察された。水深 9 m 以深では岩盤と砂質域が交互にみられるが、海藻草類はみられなかった。

測線 6 の状況 : 水深約 3~17 m で、砂質域に岩盤が混じってみられる測線であった。水深 7 m 以浅の岩盤上では、ミツイシコンブが最大被度 80% (水深約 4 m) で密生し、その他にホンダワラ類やハケサキノコギリヒバ (ともに被度 5%未満) の海藻が観察された。水深 7 m 以深では砂質域を中心とする底質となり海藻草類はみられなかった。

測線 7 の状況 : 水深約 2~21 m で、砂質域に岩盤が混じってみられる測線であった。水深 7 m 以浅の岩盤上では、ミツイシコンブが最大被度 80% (水深約 2 m) で密生し、その他にスガモ (被度 5%未満) やハケサキノコギリヒバ (被度 40%) が観察された。水深 8 m 以深では砂質域と岩盤が交互にみられるが海藻草類はみられなかった。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注 : 観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 13,048 地点

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、ミツイシコンブやスガモ、ウガノモクを主体として、その他にアナメやハケサキノコギリヒバ等の海藻が観察された。

地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	14.4	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp2	6.2	ミツイシコンブ+, ハケサキノコギリヒバ 5%	1	岩盤の谷に砂が溜まる
Sp3-1	6	ミツイシコンブ 80%、ウガノモク+	1	ミツイシコンブ群落
Sp3-2	6	ミツイシコンブ 80%、ウガノモク+, アナメ+	1	-
Sp4-1	1.5	スガモ 80%	1	スガモ群落
Sp4-2	3.1	ハケサキノコギリヒバ 50%、スガモ+, アナメ+	1	-
Sp5	4.2	分布なし	1	ウニ類がみられる
Sp6-1	8.1	分布なし	1, 4	岩盤の谷に砂が溜まる
Sp6-2	7.2	アナメ+, ホンダワラ類+	1	-
Sp7	6	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp8-1	2.8	ミツイシコンブ 30%	3, 4	砂地と岩盤の境目
Sp8-2	3.4	ミツイシコンブ 100%	1, 4	ミツイシコンブ群落
Sp9	1.8	クロハギンナンソウ+	3, 4	砂地に存在する礫上に海藻が生育
Sp10	12	分布なし	1	-
Sp 新規 1-1	5	スガモ 50%、ハケサキノコギリヒバ 30%	1	-
Sp 新規 2-1	4	ミツイシコンブ 20%、スガモ 50%	1	ミツイシコンブとスガモが混生
Sp 新規 2-1	5.2	ミツイシコンブ 50%、スガモ 20%	1	ミツイシコンブとスガモが混生
Sp4 新規 1-2	2.8	スガモ 30%、ミツイシコンブ 20%、ウガノモク+	1	-



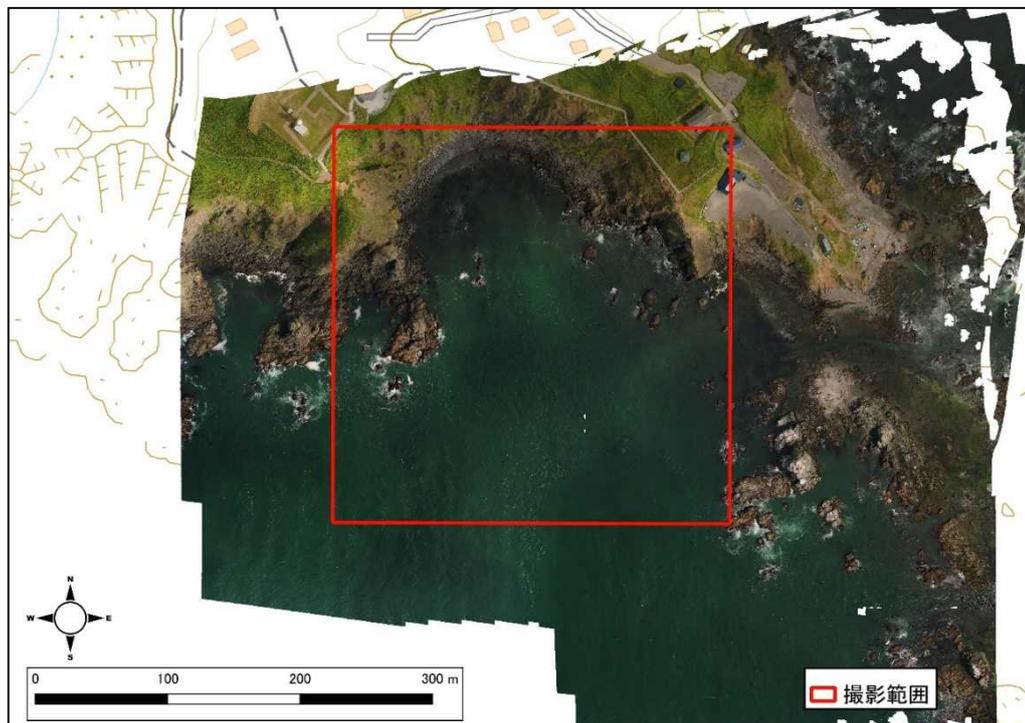
ミツイシコンブ 水深約 6 m



スガモ 水深約 3 m

【UAV 撮影】

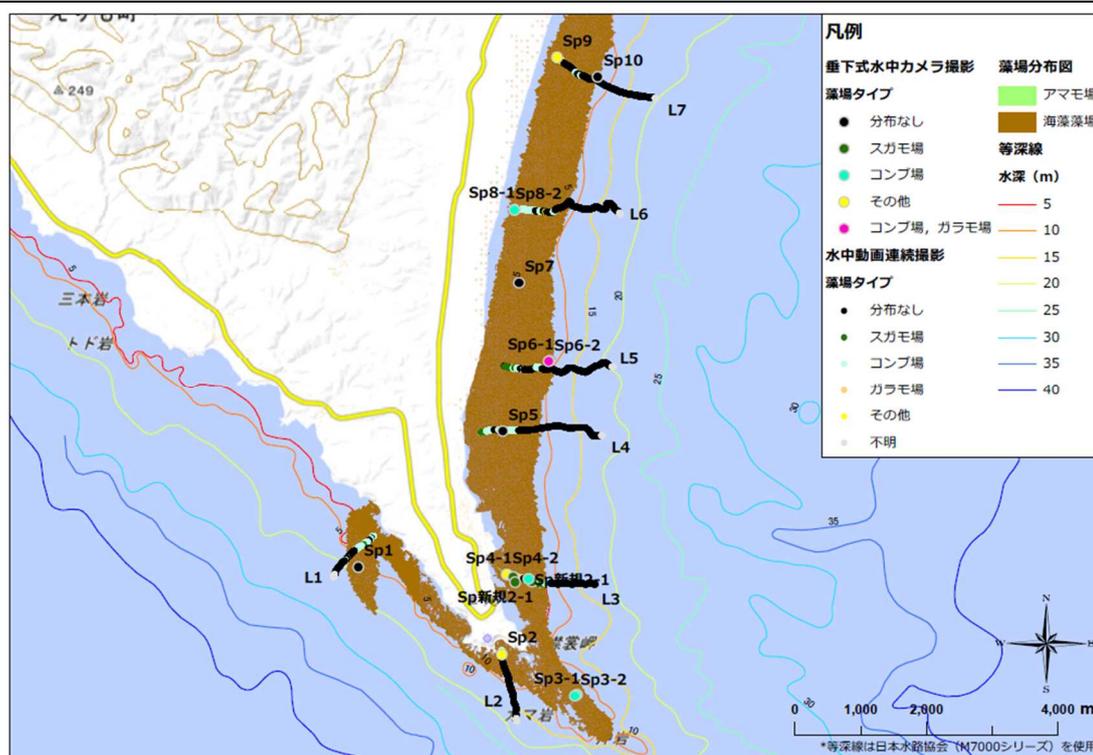
300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。本調査時は、海水透明度が低く、海藻の識別は明確にできなかった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)
08:19-08:25	CDL0.63m	東南東・1.2m/s	1.0m	130.0m

*潮位は、浦河海上保安庁の推算潮位

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

切立った崖を後背部とする海域で、岸よりは岩礁域であり、沖合は砂質域となる測線が多かった。岸よりの岩礁域ではミツイシコンブやスジメ、スガモ、ホンダワラ類、クロハギンナンソウ、ハケサキノコギリヒバ等の海藻草類が確認され、水深約 2 m から最大で水深約 7 m まで観察された。それ以深では砂質域が広がる測線が多く、海藻草類はみられなかった。



ミツイシコンブほか



周辺状況（測線 1）



周辺状況（襟裳岬）



周辺状況（襟裳岬）

(11) その他特記事項

特になし